新型コロナウイルス感染症対策に伴う高校ボート競技
全国規模大会開催の安全ガイドライン

○　公益財団法人　全国高等学校体育連盟ボート専門部

○　第１版　：　令和２（2020）年７月 16 日
○　第２版　：　令和２（2020）年９月 15 日（Ｐ８−９（10.大阪府立漕艇センター）更新）

（※　令和２年度全国高等学校ボート選手権特別大会（大阪開催）版）

1.　基本方針

選手・大会役員や補助員及び来場者の生命・健康の安全を最優先に注意をはらい、安全第一で競技運営を行えるようにする。

2.　大会開催の前提条件

（１）緊急事態宣言の解除

①　移動制限の解除

②　不要不急の外出自粛の解除（開催地を含む都道府県間の移動を認めている）

③　店舗営業自粛の解除

④　学校において部活動が認められている（競技会に向けた練習時間の確保）

（２）開催自治体からイベント開催が認められている。

（３）医療機関の新型コロナウイルス感染症患者受け入れ対応に余裕がある状態。

（４）大会に関わる全ての人の健康状態の管理体制を整える。

（５）ガイドラインに沿った競技運営をする。

3.　本大会の開催について

（１）大阪府の方針に従うことを前提とし、日本ボート協会の全国イベント再開ガイドラインに基づいて実施。

（２）感染拡大の兆候やスポーツイベントにおけるクラスターの発生があった場合、大阪府知事の要請等に基づき、無観客化、中止、延期等の適切な対応を行う（本大会の場合は、オンラインマシンロウイング大会へ切替え、実施予定）。

（３）競技会に関わる参加者が「新しい生活様式」に従って感染症対策を実践している。

（※１：厚生労働省・令和２年５月４日　参照）

4.　運営側・大会参加者全般の遵守事項

（１）日本ボート協会　ボート競技トレーニング再開のためのガイドライン第１版

（２）日本ボート協会　新型コロナウイルス感染症対策に伴うボート競技大会開催に関するガイドライン　第１版

（３）新型コロナウイルス感染症対策に伴う高校ボート競技全国規模大会開催の安全ガイドライン　第１版

※（３）は、大会参加までに各校内で研修会を実施（監督・引率者への質問等は随時受付を行い、専門部と協議し、実行委員会で対応予定）。

5.　大会開催にあたっての基本注意事項

３密を回避（下記が想定される場所を徹底的に排除し、安全対策を徹底する）

①　密閉空間（換気の悪い密閉空間である）

②　密集空間（多くの人が密集している）

③　密接空間（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）

（※１：厚生労働省・令和２年５月４日）

「新しい生活様式」の実践例

（１）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

□人との間隔は、できるだけ２ｍ（最低１ｍ）空ける。
□遊びにいくなら屋内より屋外を選ぶ。
□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
□外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
□家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
□手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

※　高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

□感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
□帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
□発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
□地域の感染状況に注意する。

（２）日常生活を営む上での基本的生活様式

□まめに手洗い・手指消毒　□咳エチケットの徹底　□こまめに換気
□身体的距離の確保　□「３密」の回避（密集、密接、密閉）
□ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養

（３）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

□通販も利用
□１人または少人数ですいた時間に
□電子決済の利用
□計画をたてて素早く済ます
□サンプルなど展示品への接触は控えめに
□レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

□公園はすいた時間、場所を選ぶ
□筋トレやヨガは自宅で動画を活用
□ジョギングは少人数で
□すれ違うときは距離をとるマナー
□予約制を利用してゆったりと
□狭い部屋での長居は無用
□歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

□会話は控えめに
□混んでいる時間帯は避けて
□徒歩や自転車利用も併用する

食事

□持ち帰りや出前、デリバリーも
□屋外空間で気持ちよく
□大皿は避けて、料理は個々に
□対面ではなく横並びで座ろう
□料理に集中、おしゃべりは控えめに
□お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

□多人数での会食は避けて
□発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

（４）働き方の新しいスタイル

□テレワークやローテーション勤務　□時差通勤でゆったりと　□ オフィスはひろびろと
□会議はオンライン　□名刺交換はオンライン　□対面での打合せは換気とマスク

※　業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

6.　宿泊・食事・移動面

（１）配宿制度を採用

①　業者へ委託し、「宿泊面・食事面（昼食お弁当含）希望校には移動面」を一括してとりまとめ、各校と調整し、大会期間中の責任を担ってもらう。

②　業者が実行委員会の指導の下で宿泊要項の作成を行う。

（２）宿泊

①　ホテルごとに価格ランク分け（Ａ～Ｈランクを想定）

②　部屋割りは、各室最大５名まで（舵手付きクォドルプルを想定）

③　個人間を１ｍ以上空ける部屋（和室５名まで、フォース・トリプル・ツイン）もしくは、シングル（監督・引率者は原則シングル）

④　１ｍ以上空けることができないダブル・セミダブルの場合は、各宿泊先の責任で隔壁やそれに代わるものを準備する（※大会役員・補助員生徒の宿泊先は、実行委員会で準備する（送迎バス有））。

（３）食事

①　１泊２食付・１泊朝食・１泊夕食・素泊りを各校で選択できる。

②　食事形式として、「バイキング制度・セットメニュー（軽食セット）・どちらでも可」を各校で選択できる。

③　希望校は、同時に昼食お弁当の申し込みも行える。

（４）移動

①　移動１（地元－府立漕艇センター及び宿泊先ホテル間（往復））

・原則、各校の責任で行う。

・希望校には、移動バス手配も可（伊丹空港・関西国際空港・新大阪駅・府内各フェリーターミナルを想定）。**（※２：移動バス　参照）**

②　移動２（宿泊先ホテル－府立漕艇センター間（往復））

・原則、各校の責任で行う。

・希望校には、移動バス手配も可。**（※２：移動バス　参照）**

（※２：移動バス）

・50 名乗りの大型観光バス　…　最大 40 名乗車の想定

・空間除菌を行える設備有。バス内の空気が自動的に５分で全て入れ替わる装置の設置有。

・宿泊申込書と同時に調査し、希望校の申し込みを受け付ける。

・費用は、希望校から別途徴収（期間中通しで１名約 9000 円（６/19 時点））。

7.　<u>競技・運営面</u>

（１）主催者としてすべきこと

①　大阪府・高石市及び近隣医療機関の協力を得る。

②　大会会場において、３密解消の工夫を徹底する。

③　頻繁に触れる箇所は清掃・消毒し、会場・施設環境を清潔に保つ。

④　大会に関わる全ての方に開催地（大阪府）の新型コロナウイルス感染症に関する状況について、参加者へのメールや全国高体連ボート専門部ＨＰ等を通じて伝える。

（２）大会に関わる全ての方がすべきこと（選手・チーム関係者・大会役員・大会補助員・観客・メディア関係など）

①　自己の体調管理を徹底する。

②　日本ボート協会の体調・行動記録シートを使用し、大会１週間前からの体調管理チェック表を記入し、大会当日、主催者へ提出する（顧問及びチーム責任者が管理する）。

③　過去１週間で発熱等の体調不良があった場合、会場入りせずに自宅待機・療養する。

④　大会終了後２週間以内に発熱等の症状があった場合、最寄りの保健所・医師会・診療所等に報告、相談し、必ず大会主催者に報告すること。

（３）大会開催にあたっての感染防止対策（大会参加者・関係者全般）

①　大会全般

・３密を回避する。

・ソーシャルディスタンスの確保（日本では２ｍ）。

・こまめに手洗い・手指消毒ができるように会場内のあらゆる場所に消毒用アルコールを設置し、各トイレの手洗いにはポンプ式石鹸を設置し、３０秒以上の手洗いを奨励する。

・タオル・水分ボトルは必ず自分で持参（購入）し、自分のものを使用する（貸し借り禁止）。

・屋内では原則、マスクの着用を義務付ける。**（※３：マスク不要・着用例　参照）**

②　マスク不要時（例）**（※３）**

・屋外での活動時全般

・アップ、クールダウン時

・トレーニング時（エルゴ・バイク・ラン・体幹等）

・乗艇（レース）時（但し、コックスは原則マスク着用し、コックスボックスの使用を推奨）

・水分補給や食事中

・清掃時

<u>◎マスク無しでの正面向いての大声での会話は極力避ける。</u>

③　マスク着用時（例）**（※３）**

・屋内での活動時全般（トレーニング時は除く）

・桟橋（出艇・帰艇の補助等）

・クルー（チーム）ミーティングなどの会話時

・積み込み、積み降ろし、リギング等

・移動中

<u>◎熱中症予防のため、屋外で人と２ｍ以上の間隔が確保できる場合は適宜マスクを外し、休憩と水分補給を行うこと。</u>

④　大会前

・監督・コーチなどのチーム責任者は、日本ボート協会の体調・行動記録シートを使用し、大会１週間前からの体調管理チェック表を記入し、大会当日、大会主催者へ提出する。

・過去１週間で発熱等の体調不良があった場合、会場入りせずに自宅待機・療養させる。

（※４：参加見送り例　参照）

<u>※４：以下に該当する場合は、自主的に参加を見送ること</u>

・体調が良くない場合。

・体温が平常時より 1.0 度以上高い場合（目安 37.5 度以上）。

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

・艇等の荷物積み降ろしでは密を防ぐために、大会２日前より時間と場所を区切って、学校及び都道府県ごとに行う。

⑤　競技前・競技中（水上・陸上共通）

・積み降ろし（準備含）、艇の調整、リギング調整時はマスク着用を推奨する。また、リギング調整等で使用したチームの工具類は、使用後に消毒液等で清拭するようにすること。

・ウォーミングアップはクルーごとで行う（最大５名まで）。

・ウォーミングアップで使用したエルゴ等の機材は、終了後に大会主催者が用意した消毒液を使用し、各クルーで消毒を行うこと。その際、清掃用ウエスは各校で持参すること。

・桟橋に到着後、選手はマスクを外してＩＤカードケースにマスクを収納する。

・出艇補助を行う選手以外のチームスタッフは、桟橋では常にマスクを着用する。

・選手には、ウォーミングアップ含む競技（運動）中にマスクの着用は求めない。

・コックスは水上でも原則マスクを着用し、配布したフェイスシールド着用を義務付ける。大会主催者として、コックスボックスの使用を推奨する。

・大会参加者は、常に自分のマスクを携帯し、未使用時はＩＤケースにして収納しておくこと（選手のＩＤカードケースに関しては、水上活動時にはチームスタッフの保管でも可）。

・眼鏡やサングラス、手袋の使用を推奨する（但し、水中への落下防止策をとること）。

・運動中や作業中に路上や水上へ唾や痰を吐くことは、極力行わないようにする。

⑥　競技後

・桟橋に到着後、ＩＤカードケースに入れているマスクを着用する（選手本人の体調を考慮し、マスクを外したまま艇の運搬や清掃を行っても構わない）。

・帰艇補助を行う選手以外のチームスタッフは、桟橋では常にマスクを着用する。

・帰艇後、水道で艇・オール等を洗った後、よく触れる箇所（オールグリップ・シート・ストレッチャーシューズ・艇置台（持つ部分）は必須）は消毒液等で清拭することを推奨する。同時に自分の手指や顔等も洗い、手指は消毒を行うこと（チームスタッフも同様）。

・クールダウンはクルーごとで行う（最大５名まで）。

・選手にはクールダウン含む競技（運動）中にマスクの着用は求めない。

・クールダウンで使用したエルゴ等の機材は、終了後に大会主催者が用意した消毒液を使用し、各クルーで消毒を行うこと。その際、清掃用ウエスは各校で持参すること。

・運動中や作業中に路上や水上へ唾や痰を吐くことは、極力行わないようにする。
・リギング調整、艇の解体、積み込み時（準備含）はマスク着用を推奨する。

⑦　大会会場において

・毎日、会場到着後に会場入口にて体温チェックを受けること。状況により参加を許可しない場合もある。
・３密を避けて行動することを徹底する。
・会場入口等には、消毒液を設置し、消毒を促す。
・艇庫棟の室内では、常時換気を行うため、扉や窓を閉めないようにする。
・更衣室の滞在は短時間にする。更衣室内では極力、私語を行わないようにする。
・体液の付着したごみは各自で持ち帰る。
・シャワールームの利用は原則禁止とするが、沈などで水没した場合のみ利用可とする。
・３密を解消するため、コース沿い約 400mにわたってテントスペースを設定し、各校ごとでテント等を設置し、パーソナルスペースをとることを推奨する。その際、テント内の密を防ぐように各校で工夫すること。
・３密の状態が発生しやすくなるため、喫煙所は設置しない。
・ＩＤカード限定エリアを設定し、競技者・関係者の広いスペースを確保する。
・混雑を回避するため、競技者に付き添う者のウォーミングアップ場への立ち入りを最小限にする。
・全ての場所でソーシャルディスタンスを常に意識し、集団で大声を出しての応援は行なわないようにすること。

⑧　観戦・応援について（大会出場・大会関係者・一般観戦者共通）

・船台上のスペースで水路（コース）に向かっての応援や声かけは禁止する。
・コース沿いの沿道は観戦可とするが、ソーシャルディスタンスを意識して、人と人との間隔を２ｍ（最低１ｍ）取り、横並びで観戦すること。
（※コース沿い落下防止柵の支柱及び支柱中間の目印以外には立たないようにすること。そして、コース沿い芝生上は最大３列までとする（後ろ２列は、自分の１列前の応援者と重ならないことが好ましい）。）
・観戦・応援者は、マスクを着用し、近くの応援者との会話は最小限にすること。また、水上出場選手及び陸上活動選手に向けての大声での声援も禁止する。

⑨　大会運営

・大会役員・補助員も選手同様の健康観察を行い、異常がある場合には業務に従事しない。
・大会役員・補助員はマスクの着用を徹底し、希望する場合はフェイスシールド・手袋も着用することができる。但し、直接選手や大会参加者と接する部署は、フェイスシールド（透明ビニールカーテンもしくはアクリル板で代用も可）・手袋を着用義務とする。
・大会会場を消毒するために大会役員・補助員の割り当てを行い、１日２回は清掃・消毒を行う。
・大会会場において、密を防ぐための対策が行われているかどうかの巡回を大会役員で適宜行い、状況によっては声掛け及び顧問の先生（引率者）を通じて指導を行う。
・各受付では、透明ビニールカーテンで遮散する。

・監視及びコックス計量会場では、透明ビニールカーテン及びアクリル板のパーテーションで仕切りを用意し、審判と選手との接触を防ぐ。
・競技結果や大会連絡については密を避けるため、掲示板への掲示は行わない。会場アナウンス及び参加者メールや大会ＨＰでの発表を行う。
・会場アナウンスで新型コロナウイルス感染症対策を積極的にアナウンスする。
・新型コロナウイルス感染症対策についての掲示板を複数設置し、周知を行う。

⑩　開会式・閉会式

・開会式及び閉会式は実施しない。

⑪　代表者会議

・代表者会議は、オンライン出席及び会場出席（スクリーンで上映）で実施する。但し、主催者は別会場で出席する。大会参加申込と同時に出席種別の受付を行い、会場出席の人数調整を行う。

⑫　表彰式

・種目ごとに決勝レース後に行う（１位～３位までの入賞者が対象)。
・４位～８位までの入賞クルーは同種目の表彰時に、放送アナウンスで紹介を行う。
・４位～８位までの入賞者は、レースが終了して 30 分後を目安に本部までクルー代表者１名が表彰状を受け取りに来ること。

⑬　大会後

・積み込みでは、密を防ぐために、大会２日目終了後・大会３日目午前・全レース終了後に分けて、時間と場所を区切って学校及び都道府県ごとに行う。
・競技終了後、漕艇センターの敷地内の全ての箇所を消毒する。
・主催者として、競技会終了後、２週間以内に感染の報告を受けた場合、感染の情報を入手し、大阪府の衛生部局に連絡し、指示に従って対応する。

⑭　審判

・⑨の大会運営に準じる。
・審判同士で距離を確保できない場合（審判艇やスタート・フィニッシュ場など）は、要員の移動や入れ替えを制限する必要がある。
・審判が使用した全ての物品とエリア（審判艇・モーターボートや運営上必要な物品等）は、その日の終わりに完全に清掃及び消毒する必要がある。
・上記は、審判長の責任の下、各審判員に遵守させ、実施させること。

8.　医療関係・緊急時の対応

①　ソーシャルディスタンスを確保するため、救護所の広さを確保し、医師・看護師のいずれかを救護所に常駐させる。

②　救護所は、全２室で５床設置予定である。ベッド間仕切りのための飛沫感染防止可能なカーテン等を用意する。

③　また、緊急時として２室のうち１室は、新型コロナウイルス感染症の隔離エリアとして設置する。

④　隔離エリアを含む救護室には、緊急時の対応に必要な物資を備えておく。

⑤　競技中・競技後に体調不良を訴えた選手に対し、医師の他、防護体制（マスク、フェイスシールド、手袋、眼鏡等）を整えたスタッフで対応する。

⑥　緊急時に備え、地元消防局・医療機関と連携し、迅速に救急搬送できる体制を構築する。

9.　大会主催者の免責事項

・本ガイドラインは関係諸機関のガイドライン等の情報を用いて記載されているが、使用者の責任において活用するガイドラインである。大会主催者として、最大限安全に考慮し、マニュアルに従って運営を行うが、大会に関わる全ての方の新型コロナウイルス感染症への感染に対するいかなるの責任を負いませんので、ご理解いただきたい。

10.　大阪府立漕艇センター（浜寺漕艇場）

①　大阪府立漕艇センターの利用遵守事項に沿って大会運営を行う（2020 年５月 30 日版）（http://rowing-osaka.jp/oara_hamadera/corona_open.pdf）

②　桟橋

・密を防ぐために、大会期間中に桟橋を借用して桟橋スペースの確保を行う。

③　Ａ棟・Ｂ棟　**（※５：府立漕艇センター図　参照）**

・選　手　休　息　室：入口に一部屋あたりの目安最大人数を表示する

・Ａ 棟 １ 階 艇 庫 内：極力、屋外のテント自由設置エリアでの待機を依頼する

・Ｂ棟２階屋外観覧席：ウォーミングアップスペースとして確保

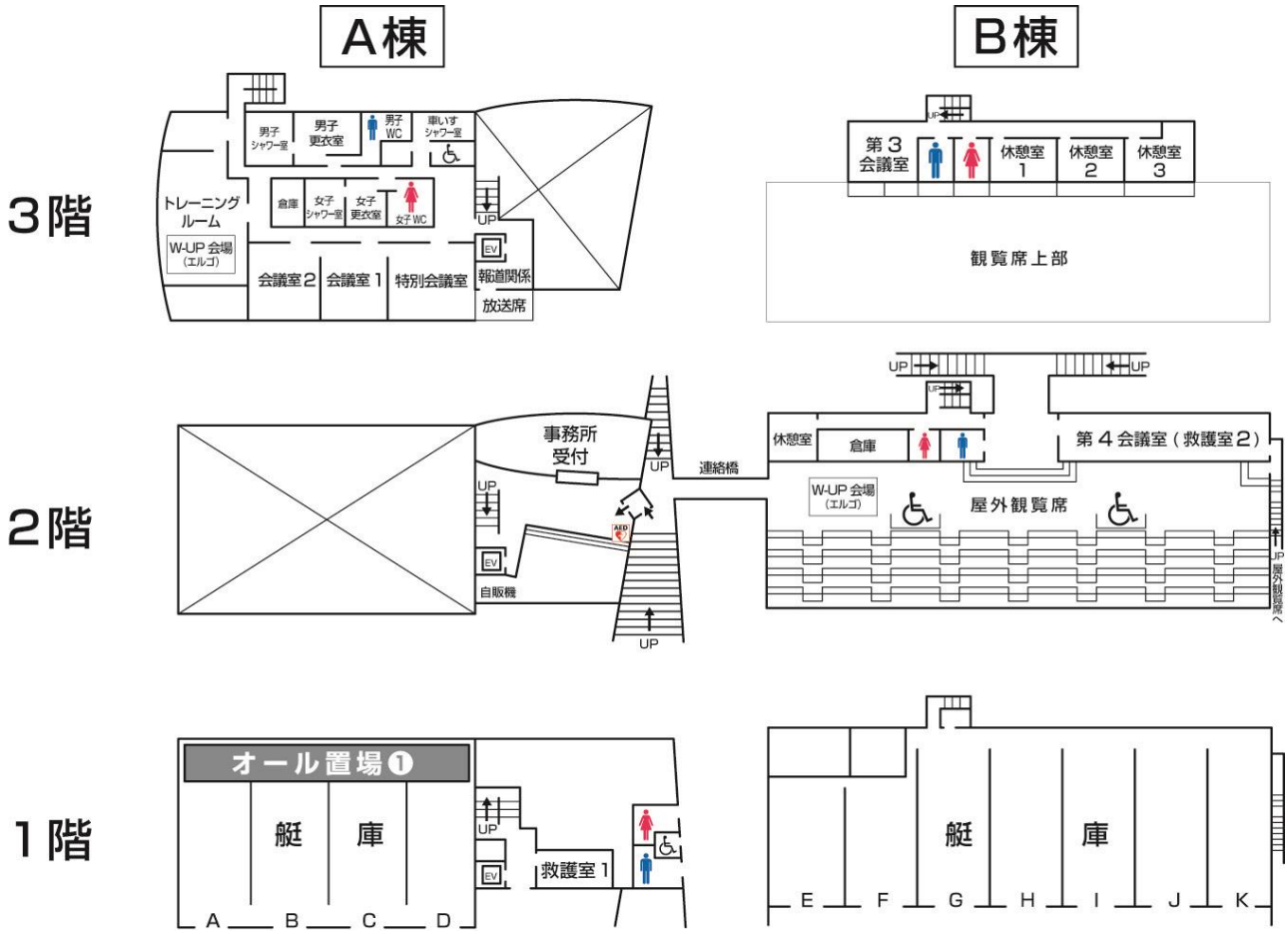
・Ｂ　棟　艇　庫　前：ウォーミングアップスペースとして確保

④　Ａ棟艇庫内　製氷機

・熱中症対策のアイシング等で使用可。飲料用としては絶対に利用しないこと。

・備え付けのスコップを使用する際、製氷機上に置いている消毒用アルコールで必ず手指消毒を行ってから利用すること。

（※５：府立漕艇センター図）



A 棟

３Ｆ

○特別会議室：来賓・審判控所
○会議室１・２：選手・監督休憩エリア
○トレーニングルーム：Ｗ－ＵＰエリア
○テラス：放送席

２Ｆ

○ロビー：選手・監督休憩エリア

１Ｆ

○１Ｆ救護室前スペース：審判員席
○艇庫内：選手・監督休憩エリア／（◎製氷機２台）
○救護室１：１床設置（救護室）（◎製氷機１台）

B 棟

３Ｆ

○休息室２・３：緊急時救護室
○第３会議室・休息室１：大会役員専用

２Ｆ

○第４会議室：４床設置（救護室）
○和室休憩室：大会補助員専用
○屋外観覧席：選手・監督休憩エリア
○屋外観覧席上部：Ｗ－ＵＰエリア

１Ｆ

○各団体艇庫：使用不可（水道利用可）

○　Ａ棟・Ｂ棟艇庫前：Ｗ－ＵＰ・艇ラック置き場・艇洗い場等

＜参考資料＞

○移行期間における都道府県の対応について
（内閣官房・令和２年５月 25 日）
（https://corona.go.jp/news/pdf/ikoukikan_taiou_0525.pdf）

○大阪府における感染拡大防止に向けた取組み（概要）
（大阪府・令和２年５月 28 日）
（http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/38112/00000000/0528_kansenboushitaisaku.pdf）

○スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
（公益財団法人日本スポーツ協会・令和２年５月 29 日改訂）
（https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html）

○スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について
（公益財団法人日本スポーツ協会　スポーツ医科学委員会委員長　川原貴・令和２年５月）
（https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4164）

○宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン（第１版）
（日本旅館協会・2020/５/21 一部改訂）
（http://www.ryokan.or.jp/top/news/detail/298）

○バスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（第３版）
（公益社団法人日本バス協会・令和２年６月１９日 ）
（http://www.bus.or.jp/news/covid-19guideline_v3.pdf）

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としてのボート競技トレーニング再開のためのガイドライン（第１版）
（公益社団法人日本ボート協会　医科学委員会・2020/６/３）
（https://www.jara.or.jp/info/current/covid19-guide_c.pdf）

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策としてのボート競技大会開催のためのガイドライン（第１版）（公益社団法人日本ボート協会・2020/７/７）
（https://www.jara.or.jp/info/current/Covid19CompetitionGuidelinev1.pdf）

○陸上競技活動再開のガイダンス（第１版改訂）
（公益財団法人日本陸上競技連盟・令和２年６月 25 日）
（https://www.jaaf.or.jp/news/article/13857/）

○JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン（第２版）
（公益財団法人 日本サッカー協会・令和２年６月 12 日）
（https://www.jfa.jp/about_jfa/guideline.pdf）

○新型コロナウイルス感染症「COVID-19」感染拡大予防ガイドライン（公益社団法人日本カヌー協会・2020 年６月１日）
（https://drive.google.com/file/d/1z56qfH-gQIbxZDTmnP1EI0ZA-BvvhQwV/view）